写真同好会の作品

桜とビル(墨田公園)

S38A 堀 健市

春爛漫 (墨田公園)

S38A 堀 健市

薫風 (墨田公園)

S40S 佐々木 進

桜祭りの二人 (墨田公園)

S39A 三平俊悦

武蔵(634m)の春 (墨田公園)

S38A 堀 健市

桜日和 (墨田公園)

S40S 佐々木 進

大桜勇壮 (千葉県印西市)

S36M 加藤幸夫

白無垢の花嫁と白鳩 (秋田市彌高神社)

S41E 赤川 均

第15回総合写真展公益財団法人 国際文化カレッジ主催 写真コンテスト

入 選

かたくりの里 (秋田県仙北市西木町八津)

S38A 堀 健市

秀 作

山中湖落日 (山梨県南都留郡山中湖村)

趣味のコーナーの投稿先

当コーナーへの投稿は、下記までe-mailで随時ご連絡ください。

●赤川 均
redrb@jcom.home.ne.jp
●嵯峨 良平
saga_ryohei@ybb.ne.jp

川柳

金砂健児 昔質実剛健
今はしご五軒

上司には縦に 尺八同好会では横に
首振り上手な俺

そうかい 秋工OB誌の 編集会かい
S43X 秋古けんじ

古里に 帰郷しすぐに 良かったね
一分経って ひばえがたねが
S43C 船木 整

ほろ酔いで 縦横コラボは 民謡を
尺八師範と フルート名人
(東京秋工会幹事会後の懇親会で)
S47A 下總 勉

秋田の杉は やさしくて
なぜか都心で花粉症

手足の痛さは 加齢のせいと聞て
我が家はカレー抜き
S31M 鈴木彦之

乱れ咲く 桜の下も 乱れ咲く
酒乱 乱痴気 此処ぞとばかり

パッと見は 昔と変わらぬ 体形も
フリーサイズに 頼る今かな
S48M 船木一美

金砂 趣味のコーナー

写真俳句

富士山で 雲海来光 仙客に

多摩の空 雲間にのぞく 天体ショー

担ぐのは なでしこジャパン 按針祭

S36E 加賀谷健治

漢詩

※秋田弁の漢詩

相思 王維

南国生まれのアズキっこ（紅豆）だば、
春っこ来れば枝っこを何本か出す。
枝っこをじっぱし採って、彼女に贈ろう。
だって慕いあっているのを表す物っこだから、
受け取ってくれればプロポーズオーケーだもの。

相思 王維 作
紅豆生南国 春来発幾枝
願君多採擷 此物最相思
王 子雲 訳

※創作漢詩

看到茶花柵 王 子雲

晩秋看到朶茶花
木柵貴香不断発
黒蜂尽興正吸蜜
人古如何知飲茶

「意味」茶の花の柵を見つける
晩秋に木柵が高貴な香りを、絶え間なく発している茶の花を見つけた。黒蜂が夢中に蜜を吸っているが、人は古（いにしえ）に、どのようにして茶を飲むことを知ったのだろうか？（意：人も蜂と同じように、高貴な香りに魅了されたのだろう）

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

晩秋に近所を妻と散歩していたら、小さな白い花が咲いている柵の木に、蜂が夢中になって蜜を吸っていたのを見つけた。花に近づいて匂いを嗅いだら、何とも言えない高貴な香りだった。この木は何か？と尋ねたら、妻が言うには「これが茶の木よ・・・」

この時のようすを漢詩にしました。

漢詩は古来から中国語で詠むと、自然に節が付くように押韻や韻律の工夫がされてきました。看到茶花柵も1、2、4句に押韻をし、韻律も古来の形式を取り入れて七言絶句にしました。

また俳句は5・7・5ですが、実は漢詩も同じようにリズムがあって、7言詩の場合は各句とも2・2・3で、5言詩は2・3です。看到茶花柵の1句を見ると「晩秋+看到+朶茶花」で2+2+3になっているのが分かります。これを知らないで創った詩は、リズムがめちゃくちゃな感じになります。このように単に漢字を並べただけでは漢詩にならないのが、漢詩のおもしろいところです。

S43E 王 子雲（嵯峨良平）

詩

なんだ？

宇宙、地球、人間、細菌
光、音、風、ナメクジ
家をがれきに変えてしまう
円周率πの限りない
そして心、愛
そんな疑問を抱きながら
支えあって

大きさってなんだ
速さってなんだ
水の力ってなんだ
桁数ってなんだ
絆ってなんだ
人間はお互いに
死ぬまで生きるんだ

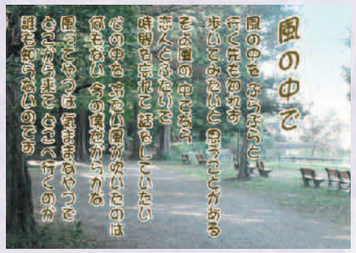
S31M 鈴木彦之

春想う 今の気持ちにて

花と戯れ 風にのり 地と遊び 空に舞う
赤き太陽に ロづけし 心は自由に どこまでも

S40C 門脇 隆

フォトポエム



秋工3年生の文化祭時に作った自作曲の詞。こうした思い出の詞と気に入った写真を組み合せ、ブログなどに掲載しています。
（背景の写真は善福寺公園）

S48M 船木一美

短歌

※山岳短歌

故郷に 錦を飾るか 太平山
朝な夕なに 眺めし山よ
H23・7・2 秋田県・太平山 (1171m)

富士登山 押切もえと 遭遇す
疲れた足に 癒しの声が
H23・8・1 静岡県・富士山 (3776m)

一つ越え 又一つ越え 本仁田山
こえぇでつながる 故郷仲間
H23・9・10 東京都・本仁田山 (1224m)

鎖場の 鉄の冷たさ 心地よく
妙義山系 紅葉に燃えて
H23・11・5 群馬県・妙義山 (中腹)

小雪散る 明神が岳 登り切る
明日の痛みを 知らずや我は
H24・1・14 神奈川県・明神ケ岳 (1169m)

延期から 不参加となる 伊豆が岳
春の悪戯 三寒四温
H24・3・14 埼玉県・伊豆が岳 (851m)

※友の死に

友逝きて 寝返りを打つ 暗やみで
彼の人生と 我を重ねけり

男鹿号で 始まる旅路 終着す
妻子残して 時代をつなぐ

時移り 桜の花も 咲く4月
始まりの頃 ふと思い出し

S38A 宮越敏光